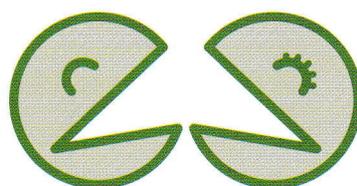


日本笑い学会 関東支部20年のあゆみ

記録を大切に、記憶に残る記念誌として



2014年12月20日

日本笑い学会 関東支部

目 次

	頁
1 はじめに 日本笑い学会 関東支部支部長 斎藤精一	1
2 20周年を祝す 日本笑い学会会長 森下伸也	2
3 各支部からのメッセージ (北から南から)	
北海道支部 (支部長 伊藤一輔)	3
東北支部 (支部長 千葉俊一)	4
新潟支部 (支部長 今井 誠)	5
信州支部 (支部長 田中高政)	6
浜松支部 (支部長 井上邦夫)	7
中部支部 (支部長 石野一雄)	8
三重支部 (支部長 淵田 科) (文・中村富美 事務局長)	9
京都支部 (支部長 松本政男)	10
岡山笑わん会支部 (支部長 滝川雅之)	11
笑いんさい広島支部 (支部長 岩崎永太郎)	12
四国支部 (支部長 枝廣篤昌)	13
福岡支部 (支部長 小野義行)	14
5 日本笑い学会についての紹介	15
6 関東支部の紹介 (2014年度版)	17
7 関東支部研究会の記録について	20
(1) 関東支部研究会の記録	
第1回～第100回	21
第101回～第200回	28
第201回～第218回	47
(2) 関東支部研究会の聴講録	
平成23年度 (174～185回)	56
平成24年度 (186～197回)	70
平成25年度 (198～209回)	83
8 関東支部研究会講師の研究ノートから	
笑い生活習慣	池田由紀 100
古典の中のユーモア「シェイクスピア作品から」	落合真裕 102
笑いの変化に関する一考察「メディアと若者の関係から紐解く」	瀬沼文彰 105
狂歌の笑い～現代に息づく日本の庶民的ユーモア～	野中由彦 108
グッチー綴り方教室	山口政信 112

9	関東支部会員からの声・コラム	
	岡 晴夫、浦野洋司	115
	葛西文夫、長谷川真弓	116
	猪狩大樹、川上千里	117
	岡村志以、中井宏次	118
	三宅聖子、野中由彦	119
	高杉和徳、丸山孝男	120
	後藤玲子、橋本 稔	121
	山本成夫	122
	コラム	123
10	研究会、懇親会、運営員会風景	124
	・ 10 周年記念研究会風景	
	・ 100 回記念研究会 2005 年 1 月	
	・ 150 回記念研究会 2009 年 4 月	
	・ 京都総会	
	・ 15 周年までの関東支部の研究会写真集	
	・ 15 周年記念研究会風景	
	・ 関東支部総会 2013 年 4 月	
	・ 200 回研究会 2013 年 6 月	
	・ 20 周年までの研究会写真集	
	・ 大阪総会 2014 年	
	・ 運営委員会	
11	関東支部 20 年史表 (平成 6 年～平成 26 年)	132
12	おわりに	144
13	編集後記	145

はじめに



日本笑い学会 関東支部
支部長 齋藤 精一

関東支部は、日本笑い学会の創立から7ヶ月後の1995年2月20日に最初の支部として設立され、2015年2月に創立20周年を迎えます。

以来20年間、毎月の研究会を中心に関東支部の活動を行っております。

研究会では、研究テーマとして ①笑いと言術・芸能 ②笑いと言健康 ③笑いと言地域文化 ④笑いの理論 ⑤笑いと言コミュニケーション の5分野と、種類として ①研究成果 ②実践報告 ③参加型の3種の区分を組み合わせ、笑いをいろいろな面から捉えられるように展開しております。

研究会開催回数はこの2014年12月で218回となります。本誌に研究会のテーマと講師の一覧を掲載しておりますように、これまで講師を担当して頂いた方は、医師・看護師、落語家、新聞記者、作家・歌人、映画監督、教員、講師、大学院生、会社役員、牧師・僧侶、市民団体の代表、在野の研究者などで、さまざまな分野の講師の方が、広範囲なテーマで研究発表されております。

関東支部としてこのように20年間活動を続けてこられたのも、講師の皆様、研究会参加者、本部・各支部、会員の皆様のおかげであり、深く感謝致します。

日本笑い学会では20周年記念事業として「新・笑いと言健康」をテーマに笑いと言健康に関し、これまで以上に内容の具体化・定量化・実践を目指して全国縦断14箇所で開催致しましたが、関東支部では2014年2月に実施しました。関東支部としては今後も笑いと言健康について継続して取り上げていきたいと思っております。

また、笑いと言健康とともに、参加者の興味の大いテーマである、「笑いと言コミュニケーション」について、関東支部では2014年度研究会で重点的に取り上げ、20周年記念研究会のテーマにも致しました。私的な話で恐縮ですが、家の表札に日本笑い学会関東支部と書いてあると、配達の人・勧誘の人・近所の人と話がはずむ（はずみすぎる）ことがあり、これも笑いと言コミュニケーションのひとつか、と感じている次第です。

関東支部の次の20年にむけ、「笑いと言健康」「笑いと言コミュニケーション」を中心に、さらに活動の幅を広げたいと思っております。

「笑いは研究するものではなく、面白ければ素直に笑っていれば良い」という意見もあります。宇宙誕生以来138億年後の結果として笑うのは人間（と一部の類人猿）だけである、ということを見ると笑いを研究することは宇宙の誕生を研究するのと同様に重要なことではないかと思えます。また、毎月の研究会でわかるように、笑いを研究すること自体が笑いにつながるのではないのでしょうか。

しかし、笑いの研究にはひとつ重要な問題があります。笑うのは人間だけであるとする、笑いを研究するのにマウスなど他の動物を使っては実験出来ないということです。笑いを研究するためには我々自身が大いに笑う必要があります。関東支部はこのために役立って行きたいと思っております。

今後とも、関東支部へのご支援・ご協力をよろしくお願い致します。